四つのテスト　Ⅰ真実かどうか　Ⅱみんなに公平か　Ⅲ好意と友情を深めるか　Ⅳみんなのためになるかどうか

KADOMA ROTARY
Club Weekly Bulletin

門真ロータリークラブ

事務所　〒570-0038　守口市河原町 10-5　ホテル･アゴーラ大阪守口 5F
TEL　06-6993-0107　FAX　06-6993-0108　E-mail office-kadoma@silk.plala.or.jp
例会　毎週木曜日　12 時 30 分　　於 ホテル･アゴーラ大阪守口
会長　大倉 基文　幹事　下田 一彦　会報広報委員長 滝井 稔元　創立 1969 年 4 月 17 日

2024-25年度 RI テーマ
「ロータリーのマジック」
RI 会長 ステファニー A.アーチック

26　J U N E　2025　No. 2555

２０２５年６月 19 日 例会報告
第２５５４回 例会

次回例会　７月３日（木）
新会長挨拶・新年度の方針発表
例会後：記念写真撮影 / 理事会 開催

追 悼

高橋 英雄 名誉会員が 6 月 16 日に享年 92 歳でご逝去されました。出席会員全員で黙祷を捧げました。

高橋名誉会員は平成 7 年に入会されてから、数々の役職を歴任され、クラブ発展のためにご尽力下さいました。

いつも穏やかな笑顔で例会に出席されていたことが思い出されます。会員それぞれが、それぞれの思いを胸にご冥福をお祈り申し上げます。

高橋名誉会員、誠に有難うございました。

門真ロータリークラブ 会員一同

❑ 出席報告

会員数（出席免除会員１名含）	２１名
名誉会員	３名
本日の出席（出席免除会員１名含）	１８名
〔出席内訳：会場出席 17 名・オンライン出席１名〕	
欠席	３名
出席率	８５．７１％
5 月 15 日の出席（出席免除会員含まず）	１６名
メーキャップ後結果	１７名
出席率	８５．００％

❑ ニコニコ箱

橋田	真和	会員　誕生日の喜びに
下田	一彦	会員　誕生日の喜びに
富永	良太	会員　2 人目の孫子が生まれた喜びに
田中	義昭	会員　卓話ができる喜びに
和田	圭史	会員　田中さん卓話ありがとうございます
宇治	亨	会員　初めて万博へ行けた喜びに
滝井	稔元	会員　本日夕方、万博へ行ける喜びに
土居	弘和	会員　出席できる喜びに
橋田	真和	会員　ロータリー財団(年次寄付)へ
〃	〃	(恒久基金)へ

❑ 会長挨拶　　大倉会長

みなさんこんにちは、はじめに皆さんに残念なお知らせをしなければなりません。
大先輩であります高橋秀樹様が6月16日92歳で永眠されました。そこでこれまでのご厚情に深く感謝申し上げ謹んでご冥福をお祈りすると共に、その場で結構ですので黙祷をささげたいと思います　黙祷

会長の時間ということで少し色々とお話をさせていただきますけれど、いよいよ6月も中盤を過ぎまして私が会長させていただく時間も残りわずかと言うことでございますので、これまで言い忘れたことはないかなとか色々考えながら、どんなことがあったか振り返っていたんですけど、今月末には台北市南波ロータリーさんの周年行事に行かせていただく為、準備をしていましたらパスポートの期限が今年の春で切れておりました。

これは大変だと申請に行きましたらスタンプを押していただくところが日本百景のような日本らしい絵画のパスポートに変わっておりました。皆さんもし期限が近づいている方は更新し新しいパスポートを楽しみにしていただければと思います。
また、パスポートは申請されてから頂けるまで今は、最低2週間かかります。

セキュリティーの関係で新しい加工といいますか、特殊な印刷を東京の造幣局といいますか独立行政法人国立印刷局というところに一旦送られそこで印刷されて戻ってくるということでした。これまでの更新よりも時間がかかるようになっていますので、そこはご注意いただいと思います。申請してから2週間は絶対かかるということだけ知っておいてください。
今回も台湾には西川先輩と一緒に行かせていただきますが、私は日本語以外喋れません英語が大変苦手でございましてとても不安ですが、精一杯頑張って務めを果たしてきたいと思います。ぜひ英語の出来る方はわたくしにご教授頂ければと思います

以上で会長挨拶を終わらせていただきますありがとうございました。

❑ 幹事報告　　下田幹事

1. 理事会報告（スライドにて）
2. R財団年次寄付およびニコニコ箱へ寄付のお願い
   今年度も、ニコニコ箱へ年間とおして25,000円の寄付をお願いしております。
   寄付が未だの方はお早めによろしくお願いいたします。寄付状況は事務局へご確認ください。
3. 国際ロータリー 会長エレクト 辞任のお知らせ
   (6/11にお送りしたメールをご参照ください)
4. 今後の予定
   6/26 通常例会： 次週が今年度最後の例会となりますので「クラブ協議会」を開催し、各委員長より今年度の活動報告を発表していただきます。委員長の皆さまはご準備下さいますようお願いいたします。
   ～新年度～
   ・7/3(木)　通常例会（新会長挨拶：新年度の方針発表）
   〔例会後〕新年度記念写真撮影／理事会
   ・7/10(木)　通常例会　クラブ協議会：新委員長より各委員会活動計画 発表

❑ 卓話「ワインの初歩（日本のワイン）」

Ⅰ．日本のワインはいつ・どこから

明治維新が起こり、ヨーロッパを視察した岩倉使節団はワインが産業として重視されていることを知り新政府の産業振興の一環としてワイン造りを奨励したことが、「日本のワイン」の始まりとなります。日本人として初めてフランスに留学した山梨県の青年２人は、明治10年(1877年)現在のメルシャンの前身である日本初の民間ワイン醸造所「大日本山梨葡萄酒会社」を設立し、ここから本格的に日本のワイン造りがスタートしました。時を同じくして全国各地にワイン醸造家が生まれ、サントリーも1899年に創業し、ワイン製造販売を始めます。

しかし、ワイン産業が奨励された後も通常のワインは食卓になかなか受け入れられず。神谷伝兵衛の「蜂ブドー」やサントリーの「赤玉ポートワイン」といった人口甘味果実酒だけが成功を収めました。多くの醸造家は苦しい時代を過ごしたことは想像に難くありません。そして明治維新から100年が経ち、1970年の大阪万博をきっかけに幕を開けた高度成長の時代に第一次ワインブームが起こり、1975年に初めてワインの消費量は甘味果実酒を上回ります。現在、日本のワイン消費は第七次ワインブームの真っ只中で、チリワインなどの低価格帯ワインの家庭消費やバル・レストランの多様化など複合的な要因がありますが、その一つに「日本ワインブーム」もあるとされています。今では北海道、南は九州まで幅広い地域でさまざまなスタイルの日本ワインが造られるようになり、目を見張るような素晴らしい品質のワインにも出会えるようになってきました。

Ⅱ．　ぶどう品種

日本ワインのオリジナリティという話で必ず名前が挙がるぶどう品種は、白が「甲州」種です。山梨県勝沼で古くから生食用に栽培されてきた甲州種は糖度が上がりづらく(14～16度)、ワイン用のぶどうには20度以上の糖度が求められことから、不適な面がありました。何度かの挑戦は失敗となりましたが、2012年に初めて糖度20度を超え、2013年には25度の果実が生まれるようになりました。
一方、赤は新潟県出身の川上善兵衛が生み出した「マスカット・ベリーA」種で、こちらは最も醸造量が多い品種として君臨しています。

Ⅲ．身近な日本ワイン

日本の代表的なワインの生産地は、山梨県、長野県、北海道及び山形県。近年は大阪府や熊本県など、各地で盛んに栽培が行われるようになってきています。

1．山梨県では、勝沼、塩山、一宮、甲府などの優秀なワイン産地があります。甲州種やマスカット・ベリーA種、カベルネ・ソーヴィニヨン種、メルロ種など多様なぶどうが栽培されています。
メルシャン、サントリーなど大手ワイナリーがある一方、山梨県酒造組合を構成するおよそ 90 のワイナリーがあります。

2．長野県では塩尻市の周辺や松本市、上田、小諸周辺に産地が広まります。アメリカ系の品種やメルロ種などが栽培されています。

3．北海道では白ぶどうの栽培が盛んで、とくに余市や小樽では、ヨーロッパ系のぶどう品種から上質のワインが造られています。

4．山形県では、江戸時代に甲州ブドウの栽培が始まっており、現在もブドウの産地で生食用デラウェアを中心に首都圏に出荷している。一時は多くのワイナリーができ、ワインの一大産地でもありました。終戦後は数軒まで減りましたが、現在は地域振興策等で盛り返しつつあり、高畠ワイナリーやタケダワイナリーが知られています。

※日本のワイナリーは 413 場所。唯一、ワイナリーが無いのは佐賀県。

Ⅳ．大阪府のワインとワイナリー

大阪府は昭和初期までは日本一のぶどう産地でした。1914 年に堅下村でカタシモ洋酒製造所(現・カタシモワイナーリー)が創業し、本格的なワイン製造が始まっています。ワインメーカーは最も多いときで 119 社(1935 年)ありました(現在は 6 社)。戦後ぶどう畑はどんどん姿を消し、大阪で生まれ育った人でも大阪でぶどうを作りワインを造っていることを知らない人が沢山います。大阪府のワイン生産量は 170 キロリットルで、日本全体でみるとわずか 1%に過ぎません。

大阪府内のワイナリーは、「飛鳥ワイン(羽曳野市)」、「仲村わいん工房(羽曳野市)」、「島之内フジマル醸造所(大阪市)」、「河内ワイン(羽曳野市)」、「カタシモワイナリー(柏原市)」、日本一小さい醸造所の「大阪エアポートワイナリー(豊中市)などがあります。

門真市では、ワイナリーはありませんが、2009 年に自分たちで育てたぶどうで造るワイン「ぼくらのワイン」が誕生しました。また、2011 年より同じ北河内の四条畷市、寝屋川市、大東市と協力し、「地域コミュニティー活動の一環」としてぶどうを育てるとともに、大阪ブドウの歴史や苗木（マスカット・ベリーA種）の育て方などを伝えています。

◎参考

・日本ワイン

日本国内で栽培されたぶどうを 100%使用して日本国内で醸造されたワイン。

・国内製造ワイン

日本ワインに加え、ぶどう以外の果実を用いたフルーツワインや海外から輸入した濃縮ブドウ果汁などを使用し、日本国内で製造されたワイン。

※日本で生産されているワインのうち約 80%。「国産ワイン」のラベルで出荷。

◎お勧めの日本ワイン

・白ワイン

甲州テロワール・セレクション祝(参考価格：2, 310 円)
手造りワインさちこ・緑(参考価格：2, 809 円)
シャトー・メルシャン椀子シャルドネ(参考価格：3, 333 円)

・赤ワイン

ぼくらのワイン(国産ワイン、参考価格：1, 650 円)
がんこ親父の手造りワイン・赤(参考価格：2, 809 円)
シャトー・メルシャン　穂坂マスカット・ベリーA(参考価格：3, 765 円)
はこだて北海道 100 ピノ・ノワール(参考価格：4, 620 円)
登美の丘プティ・ブェルド 2019(参考価格：16, 500 円)

＊＊＊　例会スナップ　＊＊＊